

Yamato Welfare Foundation
ヤマト福祉財団

ヤマトグループ賛助会員向け
ニュース(季刊)
発行部数13万部・非売品

2017.4.20 Spring

No.
54

NEWS



瀬戸理事長を囲んで

ヤマトグループ社員が障がい者の働く場を訪ねました

**自分たちが感じ、考えたことを
多くの社員と共有したい**



Profile

1951年生まれ。1974年3月、工学部土木学科卒業、同年4月、建設会社入社。1984年社会福祉法人進和学園に転職、支援員として勤務。2002年4月、授産施設「進和職業センター」施設長。2006年3月、障害者支援施設「しんわルネッサンス」施設長。2011年4月、同統括施設長。2015年4月、NPO法人就労継続支援A型事業所全国協議会(略称：全Aネット)理事長に就任。

たとえ、
重い障害があっても、
働くいきがいを

相模原市の施設での未曾有の事件は、重苦しい心象を残しました。憎悪だったらまだ理解ができます。しかし人間が他の人間を不要な存在として抹殺した今回の事件、理解の限界を超えていて、つくづく人間の存在意義を考えさせられました。

翻って、私たちが携わっていた障害者就労支援の世界はどうであろうか？ 21万人の障害者が非雇用の福祉的就労という名のもとに月平均工賃が1万数千円程度、しかも労働保険も適用されないのに、実態は労働形態であります。私も含めた福祉関係者、行政府、立法府の責任は重いように思います。生きづらい人たちに同情はするけれど、もっともらしい理由をあげつらうだけのようにも感じます。

平成18年、一般就労の難しい障害者の受け入れ先として我が福祉工場(しんわルネッサンス)を立ち上げ、しかし自立支援法でやむなく平成20年にA型[※]に転換しました。そのころ営利企業が参入できるようになったものの、運営が上手く行っていない事業所が多いことを知り、平成24年に神奈川県A型事業所連絡会を立ち上げました。それを各県に呼びかけていこうとした矢先でした。平成26年6月12日にNHKニュース9で悪しきA型事業所の実態が放映されました。A型事業を運営している者たちには衝撃的でした。A型事業の将来を憂慮、危機感を持った同志を募り、平成27年2月28日にA型事業所全国協議会を設立しました。

一般の企業等で働くことが難しい人たちが、福祉的支援を受けながら労働者としてプライドをもって働き、一市民として地域生活をしてもらいたいとの想いでした。設立総会の熱気は、「このままではいけない、何とかしなければいけない」との皆さんの篤い想いでありました。あれから2年が過ぎようとしています。これからも健全な運営をするA型事業所が増えることを推進、啓発していくこと。日本の障害者就労支援制度のなかで、A型が中間的就労分野で一定の役割を果たす可能性が高いことを訴えていこうと考えています。

※A型：就労継続支援A型事業所。雇用契約を結び、最低賃金を保障する制度。

CONTENTS

表紙写真

理事長を囲む座談会で、左からヤマトシステム開発(株)久利龍義さん、ヤマト運輸(株)刃根明日香さん、瀬戸薫理事長、ヤマトホームコンビニエンス(株)杉本香緒里さん、ヤマトパッキングサービス(株)山内昌光さん

03 【瀬戸理事長を囲んで】
ヤマトグループ社員が障がい者の働く場を訪ねました
自分たちが感じ、考えたことを
多くの社員と共有したい

10 助成先レポートVol.29
(社福)田面木会 障害福祉サービス事業所 田面木の家(青森県八戸市)
プロ不在、経験ゼロからのパン屋稼業

09 平成29年度福祉助成金事業
助成金決定事業所一覧

12 この街で、一緒に生きていく。
障がい者のクロネコDM便配達事業
「受け取る人の気持ちになって」自転車チームの合言葉です。



日本障害フォーラムが
推進するイエローリボン
運動に賛同しています。

瀬戸理事長を囲んで

ヤマトグループ社員が障がい者の働く場を訪ねました

自分たちが感じ、考えたことを
多くの社員と共有したい



DMの封入・封かん、食品製造、クリーニング、システム開発など、障がいのある方の仕事はさまざまです。

今回はグループ会社のヤマト運輸(株)、ヤマトシステム開発(株)、ヤマトホームコンビニエンス(株)、ヤマトパッキングサービス(株)の4名の社員に、障がい者の働く場を訪問していただきました。

ヤマトグループの社員として、自分たちにもなにかできることはあるのだろうか。それぞれの視点で社員のみなさんが感じ取られてきた考えを、瀬戸理事長を囲み、語っていただきました。

障がい者の働く場の現状と 当財団の活動を理解してほしい

——今日はよろしくお願ひいたします。今回は、ヤマト福祉財団の活動を理解してもらうため、現場で同じ仕事に携わるヤマトグループ社員のみなさんに障がい者の働く場を訪問していただいた、初めての企画です。

瀬戸 薫理事長(以下：理事長) ヤマト福祉財団は、障がいのある方の社会的自立を支援するために小倉昌男が設立した財団です。私たちの活動は、ヤマトグループの配当金や労働組合のカンパ、そして約7万2000人の賛助会員の支援などによって成り立っています。でも、社員のみなさんは、その活動を実際に見る機会はなかなかありませんね。今回の経験を活かし、障がいのある方の働き方、姿勢や支援の現状などについて、より深く考えてほしい

と思っています。

——では、まずみなさんの自己紹介と、どのような施設を訪問されたかを教えてください。

杉本 香緒里さん(以下：敬称略) ヤマトホームコンビニエンス株式会社の杉本 香緒里です。私は、本社でお歳暮・お中元などのパンフレットの企画・制作を担当しています。訪問したのは、食品の製造・販売を行っている社会福祉法人はらから福祉会です。私は2日にわたり計4カ所の事業所を見学させていただきました。

刀根 明日香さん(以下：敬称略) ヤマト運輸株式会社西東京主管支店人材育成課の刀根 明日香です。私は、キャリア社員の入社研修に携わっています。4月からは障がい者雇用も担当することになりました。今回、障がい者の就労・生活支援が行われている社会福祉法人ヤマト自立センタースワン工舎新座を見学

し、たくさん勉強させていただきました。

久利 龍義さん(以下：敬称略) ヤマトシステム開発株式会社の久利 龍義です。見学した有限会社奥進システムは、企業向けに業務管理システムなどの開発・運用を行う会社でした。私は、WEB注文システムの開発を担当していますが、同業として抱える課題も共通していて、ここで実現されている働く仕組みなどには、いろいろと刺激を受けました。

山内 昌光さん(以下：敬称略) ヤマトパッキングサービス株式会社ドキュメントソリューションズイクスカンパニーの山内 昌光です。営業および工場の総括・管理を担当しています。訪問先の社会福祉法人ゆたか福祉会ワークセンターフレンズ星崎では、DMなどの封入封かんを利用者さんが中心となって行っています。当社にも3人の障がいのある方が働いていますので、どんな仕事を任せているかなど、学ぶことが多い見学でした。

障がい者の働く姿勢、商品の 品質などすべてに感激しました

理事長 みなさんいろいろなことを感じ取られてきたと思います。いま障がいのある方が直面しているのは「仕事もない、お給料も少ない」そんな無い無い尽くしの状況です。このままでは、障がいのある方の社会的自立は難しい。そこで福祉施設が経営者としての自覚を持ち、経営ノウハウを学び、事業を拡大、成功してもらいたいと、私たちはいろいろな角度から支援しています。その一つが福祉施設への助成事業であり、パワーアップフォーラムや夢へのかけ橋・実践塾です。これは、障がい者の支援にさまざまな形で貢献されてきた方を表彰するヤマト福祉財団 小倉昌男賞の受賞者の中から、特に給料増額で目覚ましい成果を上

げてきたモデルとなる施設を運営している方に塾長になっていただいています。

——杉本さんが訪問した「はらから福祉会」は、その塾長の一人である武田 元さんが理事長を務める施設です。

杉本 今回、食品工場やレストランを見てきましたが、商品のレベルの高さ、利用者さんと職員の仕事に対する熱い思いに感激しました。特に衝撃を受けたのは、テキパキと働く利用者さんの姿と技術力です。視覚障害の方方もいらっしやいましたが、その方はお豆腐を手にとるだけで適正な重さに仕上がっているかわかります。それを身に付けるまで何丁ものお豆腐で失敗を繰り返したそうですが、職員は「あなたならきつとできる」とあきらめずに指導を続けてきたそうです。

理事長 杉本さんは、お豆腐づくりを体験させてもらいましたか？

杉本 見学だけで体験はしていません。

理事長 私は挑戦しましたが、なかなか難しい。これを障がいのある方たちが習得するのは並大抵の努力ではないと思います。



一人でも多くの社員に、
感じたこと、考えたことを伝えてほしい

公益財団法人ヤマト福祉財団

理事長 瀬戸 薫



ブランド品の「はらから豆腐」づくりを行う
「(社福)はらから福祉会」の事業所・蔵王すずしろ

杉本 そうですね。牛タン加工場では、包丁を扱う方もいて、これにも驚きました。武田さんは「障がい者のできる範囲で仕事ができれば良い」と考えるのは違う。「いままでの福祉施設の常識」を破ることこそ必要」と話されています。でもこれは福祉の世界だけではなく、私たちにへのメッセージとも言えます。私たちに、変な思い込みがあり、勝手に障がいのある方たちの仕事に限界をつくってしまっているかもしれない。はらからで働く利用者さんたちを見て、私はそう強く感じました。

理事長 実際の仕事を拝見すると考え方が変わりますよね。

杉本 はい。衛生面も私たちが取り引きしている会社と変わらない徹底ぶりです。身だしなみ、手洗いはもちろん、エアーカーテンや異物混入をチェックする機械などの設備もしっかりしていました。これなら、当社で提示する衛生・品質チェックもクリアできると思います。

理事長 はらからの豆腐も牛タンも本当に美味いですからね。消費者にとっては、企業も福祉施設も関係ない、大切なのは品質です。

杉本 これを機にはらから福祉会だけではなく、もっと多くの福祉施設の商品にも目を向けていこうかと思っています。私たちがそんな

企画を立てることで、障がい者支援の一つとして貢献できたら、そんなことも考えさせられる良い体験となりました。

障がいのある方が働き方を学ぶ 訓練の場を初めて見学しました

理事長 刀根さんは、ヤマト自立センタースワン工舎新座に行かれたのですが、株式会社スワンのスワンベーカーリーとは、別の会社だと思っていましたか？

刀根 じつは見学に行くまで、同じだと思っていました。

——簡単に説明しますと、スワン工舎は、障がいのある方が就労に必要な社会的ルールや仕事の技術を学ぶ社会福祉法人です。パンの製造販売とクリーニング事業、SDシューズのクリーニングやメンテナンス事業も展開しています。

刀根 スワン工舎新座に伺って印象に残ったのは、障がいのある方たちが自分の仕事にプライドを持ち、職員から指示されなくても自ら判断し、キビキビと動かれている姿です。みなさんとても凛々しく頼もしく見えました。

理事長 でも誰もが最初からそんな一人前の働き方ができたわけではありませんね。

刀根 そのために、職員は障がいのある方たちが、自ら考え動きやすくする工夫をいろいろと凝らしていました。たとえば、パンの注文量はその日その日によって違いますが、その量がボードに貼付けた紙の枚数でわかるようにしていました。この紙を見るだけで、今日はこのくらい、明日はもっとたくさんあるなど、一目でわかるようになっていきます。

理事長 言葉でわざわざ説明するのではなく、視覚的に理解できる工夫ですね。

刀根 はい、さらに凄いのは、これを見た障がいのある方が「明日、私はお休みだけど、注文がたくさん来ているので出てきます」と自ら判断されていた点です。

理事長 プロの責任感が生まれていますね。



私たちが勝手に障がい者の 仕事の限界をつくっていたのかも

ヤマトホームコンビニエンス株式会社
ビジネスコンビニエンス事業本部

杉本 香緒里 (入社5年目)

社会福祉法人はらから福祉会



レストランでは利用者さんから心のこもったおもてなし
(右：はらから福祉会 武田理事長)



包丁で丁寧に牛タン加工を行う利用者さん



品質・衛生管理をプロの目でチェック

杉本さんは、お中元・お歳暮の商品企画、また熊本地震の被災地復興に商品の販路拡大なども担当しています。訪れたのは(社福)はらから福祉会。ブランド品として根強い人気のはらから豆腐や湯葉を製造する「蔵王すずしろ」、かりんとうをはじめ和菓子や洋菓子を製造する「みずぎ野の里 丸森」、牛タン加工を行う「えいむ亘理」、食肉加工を行いレストランも運営する「みお七ヶ浜」の4事業所を見学しました。杉本さんは、障がいのある方たちが主役となりレベルの高い美味しい商品を製造していること、プロの誇りを持って働く姿勢に感激。「当社で取り扱う商品は、品質・衛生管理面で厳しいチェックを受けますが、十分にクリアできますね」と、いつの間にかプロの視点で商品と現場の評価をはじめていました。



「ヤマト自立センター スワン工舎新座」ではパン製造の他にクリーニング事業も行う

刀根 私の職場にも、今期から2人の障がいのある方が働くことになりましたが、一緒に働く環境を整えることは、想像以上に難しいと感じました。でも新卒の職員の方に、気軽にいつでも相談ができるようにと、西東京主管支店の近くにある障がい者就労・生活支援センターを紹介いただき、ほっとしています。地域にこうした場があるのは、受け入れる企業にもとてもありがたいことです。障がいのある方が働きやすい環境づくり、ともに働く社員の方の意識を変えていくために必要な点を、センターの方が講師として来社いただけることもわかりました。学びたいことは山ほどありますし、互いに情報交換することで、双方にメリットも生まれると思います。

理事長 そういえば、刀根さんは昨年のパワーアップフォーラムに参加されていましたね。パワーアップフォーラムには、さまざまな福祉施設の関係者が参加し、現場の声を発信されているので勉強になりました。

刀根 はい、なにかもはじめて知ることがありました。今回の見学でも、障がい者就労・生活支援センターのみなさんが、地域企業と障がいのある方とのネットワークづくりにも奔走されていると知り、感心しました。こうし

——今回、久利さんに見学いただいた奥進システムは、第17回ヤマト福祉財団小倉昌男賞を受賞した奥脇学さんが経営する会社です。奥脇さんは、自社で働く障がいのある方の体調管理をはじめとする日常的なケアを「データベース化し、周囲のみなで支えやすくしていく『SPIIS』という就労支援システムを開発されました。現在、約50の企業がこれを利用されています。

働きやすい仕組みづくりは徹底できるかが成否を決める

た障がい者を送り出す側と迎える側とのつながりを活かしていけば、私たちの職場で障がいのある方をもっと雇用していけるのではないかと考えています。そして、ヤマトグループがこんな素晴らしい事業を行っていることを、個人的にもとてもうれしく、誇りに思いました。

理事長 会社に戻ったら、ぜひ周りの方にもどんどん話してください(笑)。



障がい者を送り出す側と迎える側、
つながりを大切にしたい

ヤマト運輸株式会社
西東京主管支店

人材育成課 刀根 明日香(入社2年目)

久利 奥進システムについては、今回見学をする前に、いろいろと情報をいただいていたので、働く環境や仕組みづくりをどうやっているのか、とても興味がありました。

理事長 実際に現場を見ていかがでしたか？

久利 ハード面では、オフィス内やトイレなどの段差をなくしてスロープをつくり、車椅子でも動きやすいようにしていました。なるほどと感じたのはシステム開発会社ならではの細かな配慮です。パソコンにつながる皆さんのケーブルや電源を、車椅子のタイヤで踏まないように工夫している点はさすがでした。

理事長 天井にケーブルを配線していましたね。社員の方とはお話をされましたか？

久利 開発リーダーに説明を受けたのですが、彼は頸椎損傷で手を動かすことができません。そこでマウスにトラックボールを採用し、指先だけで操作できるようにも工夫していました。彼と話していると普通に同業者と会話している感じでなんの違和感もありません。

社会福祉法人ヤマト自立センター スワン工舎新座



職員から「ここで仕事を覚えて、企業で働きたい」という障がい者の声を、雇用する立場で受け止める刀根さん



クリーニング事業では職場の制服を発見



製造されたパンをお土産に購入しました

4月から障がいのある方の入社手続きなどを担当する刀根さん。「私になにができるかを学びたい」とパンの製造販売やクリーニングの仕事を通して、社会人の基本ルールや仕事の技術などを身につけていく(社福)ヤマト自立センター スワン工舎新座を訪ねました。クリーニングの現場では、ご自身が勤務する西東京主管支店の制服を発見。じつは身近なところでつながりがあることがわかったようです。刀根さんが注目したのは、職員の指導法や働きやすい環境づくりへの工夫、そして自立センターの卒業者が職場に定着するためのアフターケアの徹底でした。「当社の近くにも民間の障がい者就労・生活支援センターがあると教えていただき、頼もしく思いました」。



働きやすさの追求、そこに障がいの有無は関係ない

ヤマトシステム開発株式会社
システム開発本部システム開発グループ
チーフ 久利龍義(入社5年目)

それだけこの会社が、障がいのある方が、自信を持って働けるように環境を整えているからだと思います。

理事長 ハード面だけでなく働く仕組みについてはどうですか？

久利 最も感心したのは残業ゼロの取り組みでした。奥脇さんは、残業ゼロにするためのさまざまな工夫や、仕組みを作っています。その中のひとつが『30分ルール』です。これは、一つの問題点にぶつかった時、30分考えても答えが見つからなければ周りの人にすぐ相談しなさい、というルールです。精神障がいの方は、思い詰めてしまうとパニックしてしまうことがあると聞きましたが、明確なルールにすることで気軽に相談ができますね。

理事長 久利さんも思い悩むことがある？

久利 あります、そして行き詰まってしまう(笑)。本人にはなかなか発見できない解決策も端からだとすぐ見つかったりするものです。でも周りも大変そうだとか考えるとつい一人

で抱え込んでしまう。それが社内ルールになっていけば、周りも相談に乗ってあげやすい。非常に効率的で実用的。うちにもすぐに取り入れたい素晴らしいアイデアです。

理事長 ここにはテレワーク(在宅勤務)されている方もいますね。

久利 シングルマザーで子育てをされている方など、時間に制約のある方にテレワークは理想的ですね。

それにしても残業ゼロを徹底されている点は本当にすごい。残業ゼロを徹底するためにどのような努力をしているかとお聞きしたら、どうしても残業をしなければならぬ時は、申請書を提出してもらおうが、奥脇さんは簡単に受理しないと云います。定時内で終わるように周りがサポートできないか、それでも無理なら納期を伸ばせないかを顧客に交渉すると話されていました。

理事長 これは業界的にはあり得ないこと？

久利 システム開発では納期が絶対。普通は、



「(有)奥進システム」で開発リーダーの技術的な代わりに思わず身を乗り出して見入る久利さん(中央：奥脇社長)

納期が間に合わなくなると残業して当たり前。それが常識と思っていました。その中で残業ゼロを徹底されているのは、もう驚くしかない。

理事長 新しい働く仕組みを思い立っても、それを会社に根付かせていくには、上に立つ人間がスタンスを変えない強い意志が必要でしょう。ぜひ、会社をあげて見学に行ってほしいですね。

やっつけてはダメではなく、できることを見つける指導へ

—— 山内さんが訪問したワークセンターフレックス星崎は、DMの発送代行事業を事業の柱に絞り込み、利用者さんの給料増額を進めています。現在、夢へのかけ橋・実践塾の塾長を務める新堂 薫塾長が、その前身として2010年に開講した「働くちから革新塾」にも参加。生産性を高めるためのライン化などを学び、作業の質と効率アップを工夫しています。

理事長 ワークセンターフレックス星崎は、当財団が行う助成事業の一つ「障がい者給料増額支援助成金」の助成を受け、自動重量検査機を導入した事業所でしたね。

山内 当社の工場では、DMなどの封入封か

有限会社奥進システム



車椅子のタイヤで傷つけないようケーブルを天井に配線、テーブルにはキャスターを付けて稼働式に



トラックボールや二つの画面などPC環境も万全



バリアフリーで車椅子でも働きやすい環境に

10人の社員のうち8人が精神、身体などの障がいのある方で、他にもシングルマザーなどが活躍している(有)奥進システムは、テレワーク(在宅勤務)、さらに残業0なども徹底しています。同じシステム開発業界で働く久利さんは、それを実現する大変さを身にしみてご存知です。「障がいのある方が技術を発揮できるようにしたハード面の工夫も素晴らしいですが、この業界で“残業0”は本当にすごいです。奥脇さんは『その仕組みをつくるには、それ相応の覚悟が必要』と話されていました。当社でもテレワークをテスト導入してみましたが、根付かせていくにはまだまだ多くの課題を解決する必要があります。体調管理のアプリも素晴らしいですし、驚かされることばかりです」と感心されていました。



福祉施設が育てた利用者さんの可能性を私たちの手で広げたい

ヤマトパッキングサービス株式会社
ドキュメントソリューションズカンパニー
東京主管支店 東京第一支店

支店長 山内昌光(入社21年目)

ん作業は、ほぼ機械化していますが、ここでは利用者さんの手作業と機械化を効果的に分けて進めていました。DMなどを一つひとつ手折りする人、仕分け作業をする人、新しい機械を操作する人、みなさんそれぞれに担当する仕事は異なりますが、誰もが生き生きと楽しそうに働いている姿がとても印象的でした。彼らのような笑顔で、いま自分たちは働いているのだろうか。いつの間にか、仕事にしても便利な機械にしても、あつて当たり前という感覚になってしまっているのではないかと、ちょっと考えてしまいました。

—— 山内さんは、『障がい者職業生活相談員の資格を取得されていると聞きましたね？』

山内 現在、うちの工場には、3人の障がいのある方が働いていますが、彼らが入社する時に、障がいのことをなにも知らないのに、仕事を教えることができるのだろうかと考えたのです。

理事長 それで資格を取られたのですか？

山内 形から入るのは好きではないのですが、資格を取ることで彼らに少しは認めてもらえたかなど。一方的に努力しなさいと伝えるのではなく、こちらも頑張らなければ、彼らは心のシャッターを閉めてしまいますからね。

理事長 なるほど。今回は、職員さんの指導方法から得られることも多かったでしょう。

山内 たくさんありました。私は「機械の中に入れてはダメ、フォークリフトの前に飛び出してはダメ」と、やってはいけないことばかり伝えていました。働きに来ているのに、やってはいけないと言われるのはおかしな話ですね。ワークセンターフレンズ星崎では、「もっとできること」を見つけ、彼らの働く意欲を引き出しながら指導をしています。私たち企業は、福祉施設の職員さんが大切に育てた利用者さんの可能性のボタンを受け取り、より広げていくことが使命なのだと感じました。

理事長 同業として福祉施設の仕事のクオリ



封入封かん作業を効率的に分業・ライン化「ワークセンターフレンズ星崎」

ティはどう見ましたか。少量多品種の手間のかかるDM代行発送は、多人数で手作業する福祉施設に適した仕事だと思えますよ。

山内 確かに当工場では大量の仕事は機械化でこなしていますから、そういった仕事を依頼していくのは検討の価値がありますね。

障がいのある方のために私たちにまだなにかできるはず

理事長 当財団では、今期から小倉昌男賞受賞者の竹内昌彦さんが推進するネパールでの眼科治療を支援する調査も開始します。他にも農福連携を全国に広めている自然栽培パートナーへの支援、障がいのある大学生への奨学金など、いろいろな活動を展開します。今回、みなさんには福祉施設の現状や当財団の活動を、その目でご覧いただきました。そこで感じたこと、考えたことを職場でもぜひ話してください。その言葉が、私たち財団の活動を後押しする力になります。

一同 私たちヤマトグループの社員にも、障がいのある方のお役に立てることが、なにかあると感じました。今回の体験を他の社員にも伝え、理解してもらいたいと思います。ありがとうございました。

社会福祉法人ゆたか福祉会 ワークセンターフレンズ星崎



助成で購入した自動重量検査機で封筒の重さを瞬間にチェック



作業をサポートする治具にも注目



作業のライン化や指導方法の説明を受ける山内さん

DMの発送代行サービスを事業の柱に、利用者さんの給料5万円を目指す(社福)ゆたか福祉会のワークセンターフレンズ星崎。当財団の助成で封筒の自動重量検査機を購入し、生産性と品質向上に努めています。見学した山内さんは、障がいのある方を雇用するために障がい者職業生活相談員の資格を取得した方です。「うちはDMの封入封かん作業を巨大な機械で行っています。もっと多くの障がいのある方を雇用したいと思う反面、機械に手をつっ込んだりしないかと、不安になってしまうこともある。でもここでは利用者さんの可能性を伸ばすことを大切に、いろいろな仕事を任せていますね」。楽しそうに働く利用者さんを見つめながら、うちでもあんな笑顔でたくさんの方に働いてもらえたらと山内さんは話していました。

平成29年度福祉助成金事業 助成金決定事業所一覧

(助成金額合計: 6,319万円)



I. 障がい者給料増額支援助成金 決定一覧

1. ジャンプアップ助成金 (定額500万円)

単位(万円)

所在地	福祉事業所・団体名	助成対象	助成額
北海道札幌市東区	ひかり工房	石窯オープンおよびコンバクションオープン購入資金	500
北海道有珠郡	農場たつか一む	養鶏場ハウス鶏舎整備資金	500
青森県十和田市	カシスのしずく	ニンニク生産増大ならびに収益拡大資金	500
岐阜県郡上市	ぶなの木学園共働社	農作物加工用低温減圧乾燥機購入資金	500
和歌山県有田郡	早月農園	柑橘運搬用モノレールの修復およびジャム・マーマレード製造機の購入資金	500
鳥取県西伯郡	ストーク作業所	トマトハウス増設資金	500
熊本県阿蘇郡	就労支援センター陽なたぼっこ	調理場施設の拡張増築資金	500

2. ステップアップ助成金 (上限額200万円)

単位(万円)

所在地	福祉事業所・団体名	助成対象	助成額
北海道岩見沢市	きっちんどう	食器洗浄機、スチームコンバクションオープン、冷凍庫の購入および設置資金	200
北海道空知郡	障がい福祉サービス事業所なんぷ〜香房	看板および電光掲示板、全自動エスプレッソマシン、ピザ焼成機の購入資金	200
宮城県遠田郡	共生の森	枝豆脱莢機、選別機械の購入資金	200
群馬県前橋市	菜の花	水田除草機および色彩選別機購入資金	200
兵庫県神戸市北区	上野丘更生寮	玄米低温貯蔵庫購入資金	110
兵庫県姫路市	障がい者支援センター出愛いの里	封緘機および結束機導入資金	150
奈良県奈良市	SCファームぱろぼの	障がい者が指導するプログラミング教室開設のための整備資金	200
和歌山県田辺市	はまゆう作業所	切り干し大根乾燥用アルミ温室の設置およびアングル棚設置資金	110
和歌山県田辺市	ふたば第二作業所	製パン用機器の購入資金	200
広島県尾道市	就労支援センターあおざり	カフェ開設にともなう備品購入資金	200
徳島県徳島市	障害者支援センターきのこハウス	さつま芋を蒸す機械(スチーマー・ボイラー)の購入資金	200
福岡県福岡市西区	多機能型事業所とわ・え・もあ	食品乾燥機・周辺作業設備等の購入と取り付け工事資金	200
鹿児島県薩摩川内市	おじゃったモールさつま川内館	きんかんソフトクリーム製造機購入および販売所工事資金	200

II. 障がい者福祉助成金 決定一覧 (上限額100万円)

単位(万円)

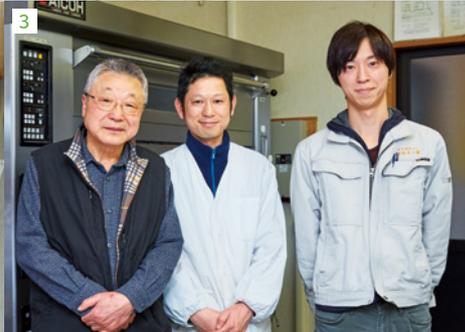
所在地	申請団体・事業所名	助成対象	申請区分	助成額
北海道旭川市	北海道重症心身障害児(者)を守る会	療育キャンプ	研修	60
宮城県仙台市青葉区	NPO法人みやぎ発達障害サポートネット	発達障害連続研修会~本人の自立と歩みよりの地域社会を目指して~	研修	80
宮城県黒川郡	吉岡宿にしびりかの映画祭実行委員会	吉岡宿にしびりかの映画祭2017	文化	50
東京都新宿区	一般社団法人全日本難聴者・中途失聴者団体連合会	難聴者・中途失聴者団体を対象にした災害時・緊急時対応に関するマニュアル開発および啓発事業	啓発	27
大阪府東大阪市	社会福祉法人ひびき福祉会	DVD製作・冊子発行	出版	100
兵庫県宝塚市	特定非営利活動法人ぽっかぽかランナーズ	いろいろな障がいを理解するぽっかぽか講習会開催	講演会	32
熊本県山鹿市	アール・ブリュット(生の芸術)パートナーズ熊本	生の芸術ArtBrut展覧会・アール・ブリュット移動美術館	文化	100

プロ不在、経験ゼロからのパン屋稼業

ふだん雪はあまり多くないという八戸。訪問したのは珍しくまとまった降雪のあった翌日のこと。しかし小綺麗な作業所は、利用者さんの活気に満ちていました。経験ゼロから始めたパン製造は、いまや日に食パン70斤、菓子パンは300～400個を生産し、地域に知られた存在です。

Data

社会福祉法人 田面木会
障害福祉サービス事業所 田面木の家
青森県八戸市



①納品時間を前に包装作業は大わらわ ②増改修を行ったパン工房 ③4段式で一度に焼ける新たに整備した大型の電気式デッキオーブンの前で。左より森内武三郎理事長、バーカリー部門主任の森内武師さん、目標工賃達成指導員の森内善伸さん ④人気商品のフーディブレッド(左)と新商品のチョコイップ。フーディブレッドの材料は、小麦粉と塩とイースト、モルトのたった4つ。トーストすると小麦本来の風味が最大限に広がる ⑤パンの納品が終わったら、翌日の仕込みを担当するものとクッキーの製造班に分かれて作業 ⑥既製品を使わず、信頼できる小豆を仕入れ、一から炊きあげたこだわりのあんを使った小倉サンド ⑦スーパーへ納品に行く利用者さん

スタートは衝撃の出会い

新八戸の駅から車で15分くらい。雪景色の中に訪れたのは、25年以上にわたって地道な活動をしてきた「田面木の家」です。昨年7月に当財団の助成を利用して、一度に16枚の鉄板を入れ、製造量上げることができる大型のパン焼きオーブンを購入。併せて、作業スペースを10㎡ほど広げる改修も施しました。

パン製造に乗り出したのは15年ほど前のことです。それまでは安価な下請け作業一辺倒。チラシ配りや衣類の糸切り、地元の芸能神事「八戸えんぶり」を彩る烏帽子の製造などを手がけていました。

しかし、「これではいくら障がい者でも、どうしようもない」、そう感じていた理事長の森内武三郎さんは、とある研修会の存在を知り、何の気なしに参加します。当日は酷い嵐で鉄道が遅れ、浅虫の会場に着いたときは、仕方なく30分ほどの遅刻。「そしたら、小倉昌男さんから『なんだ君たちは！』って怒られて…。天候は言い訳にならない。先を見て行動しなければいけないと言われて、びっくりしました」。研修会は当財団のセミナーで、売れるものを作ることの大切さが、そこでは熱心に語られていました。

「それで目覚めたというんですかね。何か自主製品を作るしかない。職員会議を開き、食品関係だったら毎日需要があるだろう。野菜関係だと鮮度が問題だ…。それならパンを作ったらどうかという話になりました」

手作りのこだわりがセールスポイント

しかし、パン作りの経験など皆無の素人ばかり



5

7 6

り。そこでつてを頼って、パン工場を運営する神戸の「社会福祉法人まほろば」に職員を派遣し、技術を一から学びました。販路は地域の直売所や、市庁の売店、福祉関係の各施設とし、店舗は構えませんでした。町の中心街から事業所は離れていたからです。

パン製造の初年度にあたる2003年の売上は約550万円。手作りのパンを標榜し、冷凍生地は使いません。菓子パンのカスタードクリームはもちろん、あんこも地元の小豆を自分達の手で煮たものです。大手製パン業者のものより少し安い値段設定もあって評判を呼び、市内のスーパーなどへ販路も順調に広がりました。

2008年には1000万円を突破。一昨年の2015年はブームにもなった塩パンがヒットし、年間売上は1500万円。給料も平均2万5

000円に達しました。

壁を一つひとつ乗り越えて

しかし、生産数の限界を感じはじめたものころです。自前の店舗を持たないビジネスモデルのため、非常勤の職員が午前3時から製造に入り、7時までにその日に卸すパンをすべて焼き上げてしまいます。その後は、出勤した利用者を中心に仕上げや包装を一気に行い、配送する流れです。しかし、オーブンの生産能力、30㎡程度の狭い作業場がネックになって、納品時間に遅れる事態も生じるようになっていました。

そこで今回の改修です。スペースにゆとりができて、作業テーブルも増やし、作業もぐっとスムーズになりました。塩パンブームは鎮静化しましたが、効率が上がった分で売上はキープ。しかし、

現状に満足しているわけではありません。「目標は月給5万円です。いつになるかは分かりませんが、頑張ります」と理事長。

現在、日曜・祝日は営業をおこなっていませんが、取引先のスーパーからは納品を期待されています。「それで、いまは祝日がつづくときには利用者さんに代休を取ってもらうようにして、土曜祝日の営業日を増やし納品回数の増加を考えています」

また、グループホームの建設も思案しているところだそうで、隣接地の購入を検討中です。グループホームができれば、利用者はそこから早朝の出勤も可能となり、仕事の種類や給料の増加が見込めると言います。

「田面木の家」の未来が楽しみです。

労働組合支部執行委員長 助成先訪問 Series 24

ヤマト運輸労働組合
青森支部執行委員長
三上 雅仁 さん



「金儲けが福祉を変える」 その実践に私たちのできること

役割分担や指導をどのようになさっているかに興味があったのですが、利用者の能力に合った場所で、各々が100%の力を発揮している様子に感心しました。そして、それが利用者さんの給料に反映される。そこでは小倉初代理事長の訴えた「金儲けが福祉を変える」という理念が実践されていました。

こうした作業所でさらに一人でも多くの笑顔が生まれるよう、私たちは地域に愛される企業として、夏のカンパやふくしねぶた、見守りサポートといったものに加え、つぎに何ができるのかをもっと前向きに考え、これからも協力を継続していきたいですね。



この街で、
一緒に生きていく。



公益財団法人ヤマト福祉財団
障がい者のクロネコDM便配達事業



向かって右から／松澤綾さん「お金を貯めて、いつか家族で旅行したい」 伊吹信介さん「お客様の気持ちになってDM便を丁寧に扱っています」 桐谷国博さん「飾り文字で書かれたポストの名前は間違えないように気をつけています」 職員の氏家清さんは、いつもノートに転居などの情報をまとめているそうです。

「受け取る人の気持ちになって」 自転車チームの合言葉です。

東京都東村山市の久米川駅は、新宿から西武新宿線で約30分。
この駅から徒歩約3分のビルの中に、社会福祉法人小さい共同体「飛翔クラブ」はあります。
毎日、平均約200冊のクロネコDM便を、メイトさんたちが自転車で配達しています。

東村山市栄町 ●

東京都東村山市は、東京のベッドタウン。駅の周りには大きな集合住宅が立ち並んでいます。社会福祉法人小さい共同体「飛翔クラブ」は、駅周辺の住宅街と少し離れたエリアのDM便配達を担当。5人のメイトさんと職員が、自転車を使って配達しています。午前と午後、それぞれ2〜3人がチームを組んで、自転車で出かけます。

メイトさんに合う人の 基準をつくった

クロネコメール便（後にDM便）事業をスタートしたのは、2012年5月。最初に、どんな人がこの仕事に適任なのかと考えて、いくつかの基準をつくったそうです。交通ルールが守れること、職員の指示に従って行動できることなどの基本条件と、身だしなみがきちんとしていること、遅刻しないこと、お客様や街のみなさんに挨拶やお礼が言えることなど、できた方がよいことをリストアップ。利用者さんの体力なども

- 埼玉主管支店 東村山栄町センター
面積1.92km²/人口23,123人/世帯数11,480世帯
- 社会福祉法人小さい共同体「飛翔クラブ」
就労継続支援B型
2012年5月からクロネコメール便（DM便）配達を開始。1日平均配達冊数、約200冊。他の活動は資源回収、清掃、手芸など。

「障がい者のクロネコDM便配達事業」
参入施設数 310施設 従事者数 1,560人（2017年2月現在）
お問い合わせは……（公財）ヤマト福祉財団 DM便担当
TEL 03-3248-0691 FAX 03-3542-5165
<http://www.yamato-fukushi.jp/>

※ 2015年4月1日より、クロネコメール便配達にはクロネコDM便配達へと変わりました。

考慮しながら、ふさわしい人に担当してもらったといえます。
「飛翔クラブ」の太田民子施設長は、「今担当しているメイトさんは、この基準に合う方ばかりです。皆さん、とても真面目で意欲的です」と話します。

配達はいっしょ同じルートで

朝、2人のメイトさんがヤマト運輸のセンターでDM便を受け取り、「飛翔クラブ」へ運びます。そこから2グループに分かれて仕分けがスタート。駅周辺のエリアは、松澤綾さんをリーダーとするグループが担当。もう一つのエリアは、腰を痛めてから仕分け専任となっている赤川究さんが1人で行います。

まず、テーブルに番地が書かれたカードを並べ、そこにDM便を分類。



▲先頭から／案内係の松澤綾さん、端末操作係の伊吹信介さん、投函係の桐谷国博さん、職員の氏家清さん。配達先に近づく松澤さんが左手を上げて合図をします。

▶DM便を配達順に並べ替える、仕分け専任の赤川究さん。



伊吹さん(右)が端末を操作し、桐谷さん(左)と二人でしっかりと住所と名前を確認してから投函します。



「今後は仕分けもできるようになって、みんなの役に立ちたい」と伊吹信介さん。



配達先にお客様がいる場合は、必ず手渡しをします。「ごろうさん」と声をかけてもらい、嬉しそうな桐谷国博さん。

自信となりました。松澤さんは「以前は地図を見るのが苦手でしたが、今では好きになりました。地図はほぼ頭に入っています。ただ最近担当し始めた地域は、まだ完全に把握できていないので、間違えないように、しっかりと確認しながらやっています」と語ります。仕分けスタートから40分も過ぎた頃、「休憩しますー」という松澤さんの声が響きました。

自転車で一列にルールを守って慎重に

配達時に自転車で行くのは松澤綾さん。案内係です。2番手の伊吹信介さんは端末操作係。3番手の桐谷国博さんは投函係。最後にDM便を確認しながら手渡す職員の氏家清さんが続きます。松澤さんは配達先が近づく左手を上げて、止まる合図をします。自転車を降りてからも、歩道を歩く通行人や行き交う車に全員で配慮し、「車が来るよ」「気を付けて」と声を掛け合います。自転車を持ると、桐谷さんがDM便を持ち、伊吹さんと2人でポストへ。伊吹さんが端末を操作した



社会福祉法人小さい共同体「飛翔クラブ」の太田民子施設長。看護師というキャリアから、利用者さん一人ひとりの能力や体力を観察しています。そして、それぞれが個性に合った仕事を選べるように、多様な業務を取り入れているそうです。「DM便配達で責任感が高まり、体力もついて、配達以外の日も休まなくなりました。チーム意識もあり、みんなとても仲がいいんです。このまま社会に出て働けるように支援していきたい」。



前列左から／メイトさんの赤川究さん・伊吹信介さん・松澤綾さん・桐谷国博さん、後列左から／ヤマト福祉財団東京支部 小林美欧事務長、飛翔クラブ職員 氏家清さん、「飛翔クラブ」太田民子施設長、ヤマト運輸埼玉支店 人材育成課 長部久美子課長、ヤマト運輸東京支店 人材育成課 長部久美子課長、ヤマト運輸東村山西支店 田村大亮支店長

後、2人で配達先の住所や名前を確認して投函。お互いにチェックをし合うことが、ミスをなくすことにつながっています。風の強い日などは置いた自転車が倒れないように、待機する2人が気をつけます。曲がりくねった道が多く、高齢者と自転車も多い街。今日もルールを守って自転車での配達が続いています。

長く続けて他の施設のお手本に

ヤマト運輸東村山西支店 田村大亮支店長は「丁寧に仕事をしていて、誤配はほぼありません。もっと交流して、関係を深めていきたい」と話します。ヤマト運輸埼玉支店 サービスセンター 山崎秀勝センター長は「1

時間約50冊というペースで配達していることに驚きます。とてもスピーディーでいながらサービスレベルが高いのは、本当に素晴らしい。頭が下がる思いです」と語ります。ヤマト運輸埼玉支店 人材育成課 長部久美子課長は「他の施設から飛翔クラブさんを見学したいという申し出があります。難しい仕事をしっかりやってくださっていることに感謝します。皆さんのお手本として長く続けてほしい」と結びました。

ヤマト運輸のドライバーだけでなく、郵便局員や他の運送業者を街で見かけると、「あ、同業者がいる」と思うという「飛翔クラブ」のメイトさんたち。プロ意識と責任感を日々高めながら、今日も元気に街の中へ自転車を漕ぎだします。

3月3・4日 「第3回 新堂塾(第3期)」

塾生施設を訪ね、ライン化の基本から具体的な改善点を現場で指導

3月3・4日に第3回 新堂塾を開催しました。初日は兵庫県三木市でヘルメットなどの組み立て等を行う塾生施設「(社福)三木市社会福祉協議会 はばたきの丘」を見学。新堂塾長と東京学芸大学の菅野 敦教授が、どうすれば利用者さんにわかりやすい作業分担と効率的なライン化が行えるかを、現場を見ながら細かく指導しました。2日目は、塾生が給料増額への進捗状況を報告。備品の置き場所をわかりやすく見える化した塾生、顧客拡大にネットで200社ぐらいに営業メールした塾生など、各人が努力を続けています。



学校の教室のような作業機の配置では前後の人がなにをしているかわからない



利用者さんの給料増額に塾生たちが、それぞれに進める活動状況を報告

2月25日 「亀井塾(第3期)・第2回 クッキー・お菓子分科会」

自分たちの商品をパティシエが評価 売上アップの具体的なヒントを得る

2月25日、亀井塾長の施設・ひびき福祉会で亀井塾の卒業生も参加し「第2回クッキー・お菓子分科会」を開きました。まずパティシエが、塾生たちに素材の特性について講義。塾生はパイ生地を使った焼き菓子などを実際に製作しながら、小麦粉に水を入れるタイミングや練り方のコツなど、プロの技法を体験的に学びました。分科会には、自分たちの商品も持参。パティシエより「焼きがまだあまいのでは」「パッケージはなかなかいい」「これだけの素材・品質なら価格を上げては」など、具体的なアドバイスを受けました。



卵の黄身、卵白それぞれの凝固温度を把握しメレンゲやプリンづくりのコツを学ぶ(中央が久合田パティシエ)



パイ生地を使った焼き菓子のできあがり

3月24・25日 「第4回 5万円必達塾」

残り半年で「時給500円、月給5万円へ」各人の課題と計画を報告しラストスパート

3月24・25日、奈良県の塾生「NPO 法人吉野コスモス会」で第4回5万円必達塾を開催しました。初日は柿の葉寿司やお惣菜を製造する「ういる工房」とクッキーなどの製造を行う「杏陽館」の現場を見学。2日目は、残り半年を切り、いかに目標を達成していくか、事業計画などを塾生が報告しました。武田塾長は「目指すのは利用者さんの時給500円、月給5万円です。原材料に経費を使って付加価値(商品)をつくること。付加価値を大きくするのは販売力です。そこに我々の支援力が問われます」と激励しました。



利用者さんが立ち働くういる工房のおせち・お惣菜の製造現場



「目の前の課題に惑わされず、成果のでない事業は変革すべき」と武田塾長

2月3日・4日、新堂塾卒業生が新潟に集合 第2回 フォローアップ研修

「実践塾を卒業したあとも、利用者さんへのより良い支援と給料増額を目指し続けたい」。意欲ある新堂塾の卒業生たちが、2月3日、新潟県のクリーニングを行っているワークセンター日和山で開催したフォローアップ研修に集いました。

「一つの顧客に売上が偏り過ぎているのが不安でした。そこで営業担当を配置し営業エリアを拡大することに。次第に顧客数が増え、売上バランスも改善してきました」と話す卒業生など、各人の報告はお互いの良い刺激になっています。



「利用者さんをいかに育てるかも大切なポイント」と新堂塾長(左より2番目)



「利用者さんが仕事の目的を理解し動ける工夫を」と菅野教授

「この仕事をずっと続けたい」 職場は異なっても思いは同じ

「卒業した後も情報を交換し、社会人として自立していく気持ちを高め合ってほしい。」
2月18日、埼玉県志木市のパルシティ志木で(社福)ヤマト自立センター 平成28年度の卒業者に修了証書を贈る「第9回卒業者の集い」を開催しました。



スーツ姿でパリッと決めた平成28年度卒業生10名(2名が欠席。全12名)



「みなさんが働くことで、周りを楽にしてください」と瀬戸理事長が挨拶



瀬戸理事長から修了証書を受け取る卒業生たち

勤続10年目になる卒業生も

ヤマト自立センターでは、2年間で就労のための訓練を行います。企業に就労することで卒業になります。この9年間で輩出してきた卒業生は142名(重複利用者は除く)です。

「第9回卒業者の集い」には、社会人としてのスーツ姿も初々しい平成28年度の卒業生たちと保護者、さらに歴代卒業生も加えた計123名が集い、にぎやかな会となりました。

瀬戸理事長は「担当する仕事を覚えたら、次の仕事も覚えていく。その挑戦意欲が社会人としての自信につながります」とエールを贈り、卒業生一人ひとりに修了証書を手渡しました。

約1年間働いてきた感想を報告

平成28年度卒業生が、仕事の様子を話してくださいました。お年寄りの喜ぶ姿を見るのがうれしいと話す初沢尚真さんは、老人ホームで清掃業務を担当。江口響さんは、JR職員の制服をピッキング・発送する仕事に就き、計画的に沖縄旅行の積立をしています。仕事が趣味の田中京介さんは、その

器用さを活かして手漉き紙による販促物を制作する仕事に。福村恵史さんは、介護老人保健施設の清掃業務に就き、初給料で大好きな本とゲームを購入しました。

スーパーマーケットで品出しなどを担当する川崎哲郎さんは、発注やレジの担当もできるように仕事を覚えたいと意欲的です。坂根太さんは、当初はメール便の配送などを行っていましたが、いまはコピーづくりなどのパントリー業務を担当。まだ戸惑うこともあります。早く新しい仕事を覚え一人前になりたいと話しています。

給料で家族にクリスマスプレゼントを贈った松浦法子さんは、病院で調理補助として活躍しています。他にも病院関連で働く方は多く、相木萌子さんは、院内の厨房に勤務し、患者さんにおいしく食べていただける盛り付けを工夫しています。看護助手や事務の補助として働く上田 遼さんは、仕事の責任の重さを噛み締めながら、患者さんに愛される仕事ができるように心がけています。病院で使用するパジャマやタオル、寝具の洗濯を行っているのは鈴木茂隆さん。でき上がった洗濯物をきれいに畳み、各病棟に届けるまでが仕事です。

近況報告の後は懇談会へ。卒業生たちは懐かしい仲間との再会を喜び合いました。懇談会の前には、平成18年度卒業生で株式会社ヤオコー・上福岡店で働く福井生さんが、今年3月で勤続10年になることが紹介されると、会場はあたたかい拍手に包まれました。

YWF TOPICS

カレンダー販売にご協力いただきありがとうございました



北東京主管支店



北大阪主管支店

恒例となったカレンダー販売が今年も各支社・主管支店で行われました。伊東屋さま(東京・銀座)からご寄付いただいたカレンダーを販売しその売上の63万3695円を(社福)ヤマト自立センターに寄付いたしました。伊東屋さま、社員のみなさま、ご協力ありがとうございました。



エリック・カール展 The Art of Eric Carle

絵本とともに、あゆんだ道。



『どうさんは タツノオトシゴ』最終原画、2003年、エリック・カール絵本美術館 © 2004 Eric Carle



『はらぺこあおむし』デザイン原画、制作年不詳、エリック・カール絵本美術館 © Eric Carle



『はらぺこあおむし』別図原画(未出版)、1989年、エリック・カール絵本美術館 © 1969 and 1987 Eric Carle

「はらぺこあおむし」と聞いて思い出すのは

エリック・カール(1929~)の名前は知らなくとも、『はらぺこあおむし』と聞けばあのおおむしが蝶に変身する色彩豊かな絵本を思い浮かべることができるのではないのでしょうか。この有名な絵本の作者、エリック・カールはアメリカで生まれ、幼少期から青年期まで西ドイツで育ちました。16歳からシュトゥットガルト州立芸術アカデミーで学んでいます。

1952年にはアメリカに戻り、グラフィックデザイナーとして活躍していましたが、1968年に絵本『1, 2, 3どうぶつえんへ』を発表してポローニャ国際児童図書展グラフィック大賞を受賞。翌年には『はらぺこあおむし』を発表します。これまでに70冊以上の絵本を上梓しています。

エリック・カール絵本美術館の由来

本展は、エリック・カール絵本美術館から全面協力を得ています。同館は1980年代前半にカール夫妻が来日した時に日本各地の絵本美術館を見学して刺激を受け、アメリカにも絵本美術館を作ろうと決心したものです。帰国してから準備が行われ、2002年に開館しました。本展では、同館の13,000点以上のコレクションから約160点を選びすぐって展示。「絵本の魔術師」と言われるカールの鮮やかな色彩作品をどうぞお楽しみください。

本展の美術品取り扱いにヤマトロジスティクス株式会社は協力しています。

DATA

開催期間 ▶ 2017年4月22日(土)~7月2日(日)
 休館日 ▶ 毎週月曜日 ※ただし、5月1日(月)は開館
 開催場所 ▶ 世田谷美術館
 アクセス ▶ ■最寄駅からのアクセス
 ①東急田園都市線「用賀」駅より徒歩17分、美術館行バス「美術館」下車徒歩3分 ②小田急線「成城学園前」駅より渋谷駅行バス「砧町」下車徒歩10分 ③小田急線「千歳船橋」駅より田園調布駅行バス「美術館入口」下車徒歩5分 ④東急東横線「田園調布」駅より千歳船橋行バス「美術館入口」下車徒歩5分
 ■車で来館の場合
 ①来館者専用駐車場(60台無料)、他有料駐車場あり ②障

がい者用の無料駐車場(無料2台)
 (予め美術館にお知らせください。Tel:03-3415-6011)
 開館時間 ▶ 10:00 ~ 18:00 ※入館は閉館の30分前まで
 観覧料 ▶

	一般	65歳以上	大高生	中小生
当日	1,200円	1,000円	800円	500円

※障がい者の方は500(団体300)円。ただし、小・中・高・大学生の障がい者は無料、介助者(当該障がい者1名につき1名)は無料。 ※未就学児は無料。団体は20名以上。
 主 催 ▶ 世田谷美術館(公益財団法人せたがや文化財団)、エリック・カール絵本美術館、読売新聞社

後 援 ▶ 世田谷区、世田谷区教育委員会
 協 賛 ▶ 大日本印刷
 協 力 ▶ 日本航空、信成社、コスモマーチャンダインギング
 問い合わせ先 ▶ TEL: 03-5777-8600(ハローダイヤル)
 ホームページ: <http://ericcarle2017-18.com/>
 巡回情報 ▶ 京都会場(美術館「えき」KYOTO)
 2017年7月29日(土)~2017年8月27日(日)
 岩手会場(岩手県立美術館)
 2017年10月28日(土)~2017年12月10日(日)
 いわき会場(いわき市立美術館)
 2018年4月14日(土)~2018年5月27日(日)

2017年度 障がい者の働く場パワーアップフォーラムのお知らせ 全国4会場で開催します

- 大阪会場** (マイドームおおさか) 7月7日(金)10時~17時
 テーマ: 「食」で広がる 障がい者の働く場
- 東京会場** (全社協・灘尾ホール) 7月21日(金)10時~17時
 テーマ: 重い障がいのある人の しごとづくり
- 金沢会場** (金沢流通会館) 8月25日(金)10時~17時
 テーマ: 農業に取り組む 障がい者の働く場
- 福岡会場*** (エルガーラホール) 9月1日(金)・2日(土)10時~17時
 テーマ: 就労継続支援A型事業所の 未来

※2日は全Aネット(就労継続支援A型事業所全国協議会)と共催のフォーラムとなります

お申し込みについて

参加対象: 福祉施設関係者、本人、ご家族ほか、障がい者の働く場づくりに関心のある方々
 参加定員: 各会場200名
 費用: 参加費は無料、昼食500円(事前予約のみ)
 参加登録方法: 詳しくはヤマト福祉財団のホームページをご覧ください



自然栽培パーティ 第2回全国フォーラムin郡山市<5月19日・20日>のお知らせ

19日 フォーラム・マルシェ
 日時: 5月19日(金) 11時30分~17時
 会場: 郡山市民文化センター中ホール
 定員: 500名
 参加費: 1000円
 記念講演 木村秋則氏
 「自然栽培 農福連携が 世界を変える」

20日 フォーラム分科会・植樹祭
 2会場での開催です。分科会では自然栽培パーティのメンバーによる実践報告や、ナチュラルファームそらまめ(郡山市中田町)で植樹祭を行います。

お申し込み・お問い合わせ ▶
 自然栽培パーティ全国協議会事務局
 〒470-0376 豊田市高町東山7番地42(無門福祉会内)
 TEL: 0565-45-7883 (担当/川井) FAX: 0565-45-7886
 E-mail: info@shizensaibai-party.com



主催: 一般社団法人農福連携自然栽培パーティ全国協議会・公益財団法人ヤマト福祉財団 後援: 郡山市、季刊「コトノネ」 読みやすさを追求した書体

